畫蜀玉芸集

三

五十一

李

花ごうん什色ちぐごうんうてる茎乃汁
或ハ白緑木うもり黒く毛毛茎の汁うけ合
ゝゝどけてこゝろひをへべ〜

紅雀

背黒くゝもに赤し黒くま毛毛茎のかゝをみ
けてこの外 時赤〜ゝ地肉色めうゝすく
朱くまゝうゝ色〜ゝ外けて毛ゝをべ〜

五十二

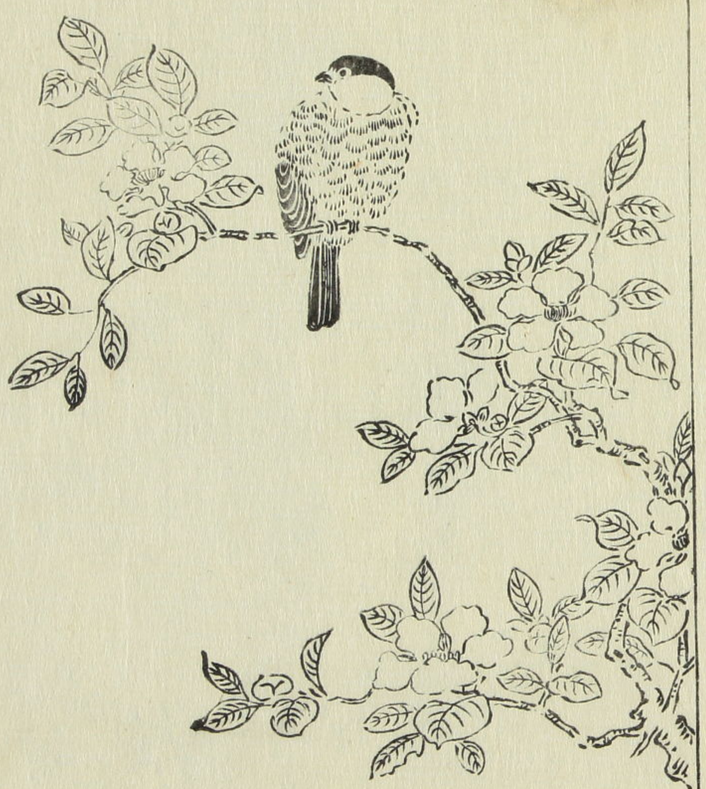
乙茶

茶梅花 海紅花

白赤ゝう白いむゝ地白緑の具めうごうん
くまゝ茎べごうんうて茎上ゝゝうゝ茎ゝ茎
緑ゝゝうゝ毛毛ゝ毛ゝ茎の汁うてゝゝべ

鸎

背黒ゝ茎ゝ目の円黒ゝ明ら淡ゝ茎ゝて脊
中ゝうす茎の具 腹切黒仕ゝ腹ゝす黒
の具上ゝせう茎ゝ下ゝうすくかけ〜ゝ思ゝゝ
白ゝ仕いゝゝ黒色の上ゝうす赤ゝこれゝ頬
肉色めう上ゝ朱をくべ〜
世よてゝうゝて又ゝ赤ゝゝてゝうゝゝゝい
腹ゝべて赤ゝ仕いゝは鳥此品を去ゝ毛



竹之

ちくぜんの花海棠くさのうらくさ

収こ

五十三

秋海棠

花ちくぜんの花海棠の異あり多くまれなり葉緑色にして毛ありて裏紫色なり花色赤紫色にして中よりしべ出でて黄色なり

鷦鷯　鷦鷯　全

嘴足共に黄色頭背羽翼共に褐色にして黒斑あり尾の上に朱色みえてふとしつのあるものとみえて尾つよく合色黒白にてすくなし

五十四

糸櫻　垂絲櫻

花ごとに糸状をなしてさくなり葉の汁葉にぬれば紅色なり花色白色にして葉の汁にぬれば紅色なり葉の汁にぬれば大がい中ぶくれて考へ合をなしてあり

練雀　連雀

絲雀八尾長し　連雀八尾短し　嘴足黒色仕立頭羽黒色にして茶色なり毛茶色にして尾ちゐさく風切黒色にてちりとんとも色白尾ちゐ月ゞ

雅如

美翁の狩衣もいと人〳〵

琴洲

五十五

罌子粟

朱壺　朱囊花

以葉はあり花白いごとく白色なれハ
也白色上朱ぶいと花ハ下の葉上をん
ゝまゝ茎ハ地茎の汁色黄めハ合せう
こくいつゝ花ハ茎の汁ゆてうこう色と
白こぶんをうくべし裏葉白緑茎の汁
くまく

鶲

黄鶲

地体黄色ハ法皇色白の上下あと尾の端
ハ白ぶい黄くもくもとうくべし風初のと下枝
白きぶいごとくけごとくんいてこもとも
出乃器を見合考へ知べし

五十六

鼓子花

旋花

花ハ小の葉上と小の下ハ白ごとくんうそとかい
ちくうくべし一流ようすきさくうの葉
ゆう上に小の下ハ白ありいづれも分ること
西ハ花を見合べし葉緑茎ハ但ハ二ごんは
夢朱ぶいみうそみきの汁

鵐

第ハ小の上白緑ハ合ハどうくべし白乃
四合ハどと之地身色ハ白ハ
初のハ白ぶいあるこんくとの色ハ
ひち狩氏の絵ハつゆよ画ハ筆ハ
大方筆ハ多く用ハしつ狩と
一色ハうそ出くハ知ハ紙色ハ
あるべし

かやうの花をれば　はつくさ
わさうかきりなくまた有うか

故人　正輔

五十七

蒲公英

花ちるこうの見ちべごうんにそつきさいた
まうけをまのけまりくま弟ちよ二二
だん緑まりくべ
ひけ仕事く草の仕事ふれぐも小ふまにへまろ
しまとかまに男る花ちれぐもちうなぐ
ら地粋大和事うに仕ちろ何い真つよ仕立
べく

雲雀

雀見ちまき地粋ちまくまちまを毛ちうすき
朱どみをしうべ一ひよお合地ちの土ちをひ
ゆり風初ふちごうん毛ち脇ごうんくまひぐ
もりきをべ

五十八

黄蜀葵　秋葵

花花ちまうの見ゆりごうんにてちべ
実べしうてゆ茎れ汁ちけてちつき
くまりくべ葉小緑ちうけうまの汁ち成
弟ちをべ

雀

雀見ちまを地粋ちまくまを二三朱どみ
くふゆくされ白一ごうんく成ちくふすき
合まりどト後ごうんくまりけひぐ毛
ちをべ

在玄 桃 櫻 や ま 行く 楮 ゝ

白主

ゆ ゝ 咲 ゝ 通 鮮 や ま り 今

蒼官堂 一曉

五十九

櫻（さくら）

桜　花粧品あり略す

なり地名の異名すくなからざるゆゑ花ごとに白ひとしきれ是ありて花くべし春中いろくさいろをかへるし春合まるごとに多くまりくまりよりに二ぢん緋まるくくくくべし合黄ゆまるみりまりあらくくくくくべし合黄ゆまるみりまりあらくくくくくべし合黄ゆまるみりまりあらく

宰相の時や頬白の名禅

如風

六十一

芍薬（しやくやく）一名 將離花（しやうり）

赤ヲ本芍薬ト云白ヲ金芍薬ト云千葉ヲ小牡丹ト云

花ごろもの異名ハ人倫仕立牡丹の名ハ人倫仕立牡丹の名ハ人倫仕立牡丹の

かハせみとくさの花いちご

子百女　花好

いろ紙や朱て八重山木蓮花

萬金

六十三

木蓮

白紫二色あり

白ごうんこ花ごうんにて茎ともに一紫緑もえ草のけ茎に木蓮花ばかりけるべし

桑寓

いうかご

茎ちくこう掛長茎こ花茎の長さ月長の長あり
既法長にてやり風切長仕立こうんおう
長の長白しきいよごうんもうきに入ども
下ちくれもごうんもとべし

六十四

牡丹

一名 牡日草 富貴草 名取草 ふうん草上ニ

紅白紫淡黄あり花地ちんの長さん
ちまごうんきわひ根ちり朴紅内色とを
朱にて仕立み丹にて仕立ちこと白いち地白
緑の長上ごうん花ちくち地白緑ちり内
色にて粒くを面ときふくいとりけちんで
にて茎ともに茎に緑ちと茎の汁仕立こう茎
茎ともにびちちく茎のけくまちんでちわひ
を入べし

菊戴

鶏

既ちり背中長こ花茎の汁ちけ風切ちみ
仕立ちこうごうんくまごうんもちこ合こう
ごうちいへべし

家庵こ公行ち使ちうり牡丹畑

女羅 琴風

菜萸の樹や菜萸のぶりやもり

斗百

六十五

菜萸

花ごうんの後葉緑色茎の汁多くまるくまるくまるくまれどくしゅと合ずし

頂小鳩 又鶺 斑鳩 鶉

背黒色の後同茎ごの頻あるごとくまる服ごうんくまる粒茎黒くまとうくべし風切尾くまる小黒色の後黒色用也朱乃上絵して仕るべし

六十六

石榴

花の後内色朱にてあり上ものくまるものくまるくまるくまる

杜鵑咲き滿開ちて八月から

曼羨

第泉

六十七

葛

葛ノ根わさびの具とするなり葛ノ葉ノ裏ノ毛付たる葉の汁仕たる葉の汁付たる葉ノ裏ノ毛付たる葉の汁付たる葉ノ裏ノ毛付たる葉の汁付たる葉ノ裏ノ毛付

翡翠の尾やはじとうの葉水仙　水光

六十九

水仙

金盞銀臺ト云

花ごうんわり四一名ちまうの吳之巷白
緑わりそう後先よりあべきかわらと
葉緑を裏白緑茎の汁まりう後茎
あり

鶺鴒　黄鶺鴒

茎角茎の落ち後ほうより地枝うす茎くま
茎の汁ひけ風切尾茎仕之後ごうんわり
毛うきごうん編ちくぶ一ちまをを称
こんべー

七十

石竹

紅白ぶうす紫あり茎葉ひ仕之紅八
淡色上朱白ごうんわり紅名ぶうもひり
さ紅名ぶの吳名ぶ後いづれもちべきん
よりうちくく後ちべ葉緑まむ二ごん
緑よりは之茎の汁く後白緑の葉去入
ちべー

比翼鳥　鸞

背角茎ち後足日脇合茎土朱ぢみ毛うき
背中地枝名ぶわりを名ぶにてもうき風
切うす茎わりふちに赤ようとくべ尾二
茎あちに分まるびとのめ一法茎にて付
之上ひごんぜうとうすくべ雌全枝雄二
似てちうす茎ごうん毛去風切裏背合
まるどわりふち朱ぢみくりを名ぶくま
尾雄より之ぶく茎うきごんぜうくべ

ふ竹やきれうしと咲ひし

浅賀

きゝすなくとてうえはぐくみ抱後畑

馬州

七十一

桔梗

白ぼん二色あり地ぶき茎法合わり多く
くまよりはくんぜうわりあり葉ごふんくまの白
金粉ごふん付豆葉絹さを苔の汁より
ん成絹去穂ましき出へ穂合しくどど
付豆葉もみはてつきそえごふんして付豆
ごふんつきそえ多くの葉して付豆多ん
じはてはくこと苔付ゆ月一

黒鶫

常見合英土頬白くごふんとよ色町ら法
葉熱粉葉まして後うす葉はて付豆べ

七十二

丁子草

花ごんぜう付豆葉絹さはて付豆とり
ん成絹去苔の汁付豆

尾長　鶯風

常見ましたち成用ましく阪法ましても○
白ごふんくま背中後ましの見ましもりさ
風初白しごふんくま先ましさ府まして
二すね尾あさばくん成

尾長鳥　筆とるしむ丁子

逸志